

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

192号 2019年3月31日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

巻頭言

「言葉により生きる」

——詩編第34編2～5節——

牧師 渡邊 義彦



どのようなときも、わたしは主をたたえわたしの口は絶えることなく賛美を歌う。わたしの魂は主を賛美する。貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。わたしと共に主をたたえよ。ひとつになって御名をあげよう。わたしは主に求め主は答えてくださった。脅かすものから常に救い出してください。 (新共同訳聖書)

M・ルターが、ヴィッテンベルグの城の教会の門に九十五ヶ条にわたる公開質問状を掲げたことを発端として起こってゆく一連の教会改革運動の流れで生まれた教会がプロテスタント教会です。わたしたちの教会もこの大きな流れを汲む教会です。このときにルターが特に疑問を抱き、ある意味、批判の思いを込めて質問を投げ掛けたのは、当時、教会が発行していた免罪符の有効性についてでした。免罪符を購入することで、そして善い行いを積み重ねることで本当に罪は赦されるのか。果たしてそのように考えることは、そもそも聖書に照らしてみても正しいことなのか。それがルターの質問の要点でした。質問の批判的な側面から、旧教、カトリック教会に対して、この後に誕生してゆくことになる新教はプロテスタント教会と呼ばれました。カトリックに対してプロテスト、対抗し、抗議したというのが教会の呼び名になったのです。

ルターがこの議論を教会に対して提示してゆくのには拠り所、土台としたのは聖書でした。彼の教会改革の原則に「聖書のみ」ということがあります。私たちは聖書からのみ、神の言葉を聞く。聖書のみで照らされて教会は教会としての有り様を、キリスト者はキリスト者としての

有り様を理解し、そのように生きようとする原動力を聖書からだけ汲み取ってゆくということです。聖書は、福音とも呼ばれます。福音は、救いを伝える言葉、良い知らせを伝える言葉です。聖書のみを教会改革、信仰の土台として、当時のカトリック教会に対抗、抗議して、プロテストして結果として生まれたプロテスタント教会は、もうひとつの呼び方で福音主義教会とも呼ばれます。この呼び名は、聖書のみを信仰の土台とするという教会のあり方をよく表わしています。ドイツ語などが、プロテスタント教会のことを、エヴァンゲリーッシュ・キルへと言い表すように、福音主義教会と呼ぶことは、わたしたちの教会の信仰のあり方を言い表すにまことにふさわしいのです。

福音主義教会、この教会の礼拝では言葉が重んじられます。祈りにしても、賛美にしても、聖書朗読、説教であっても、聖書を土台として、福音、救いを伝えることを本旨とする教会として、言葉をもって礼拝することに大きく比重が置かれています。言葉が大切にされるということは、人間の理性、理解を軽んじないということです。確かに、神様は、わたしたち人間の言葉で言い尽くせるお方ではありません。わたしたち人間の言葉などあまりに、このお方を言い表すにはあまりに貧しいものでしかありません。神様を、人間の言葉で語ろうとするとき語り尽くせずに、どこかで飛躍するところがあります。そうではあっても、なおわたしたちが言葉をもって理解して理性を犠牲にはしないのです。

神は、御自分の御心をわたしたちに理解できるようにしてくださいました。神をどこか遠い

ところに訪ね求める必要もなく、今、ここで神と見えることができるようにして下さったのです。神の御心を伝えるには、まことに貧しい、貧弱なものでしかない人間の語る言葉を通して、しかし神は御心を伝えてくださるのです。そして、キリストは、神の御心をわたしたちに伝えてくださいます。キリストは、わたしたちを救われるためにわたしたちのところにまで来て下さいました。神の御心は、わたしたちを真実に愛するという御心です。わたしたちがどのように不誠実であろうとも、どんなに不真実であろうと、しかし、わたしたちを愛することを決してお止めになることはないという御心です。キリストは、この神の御心をわたしたちに伝えてくださるお方です。キリストは、わたしたちに、今も言葉によって出会ってくださいます。キリストは、神の言だからです。

約束を守るときに「言葉を守る」と言います。約束した言葉を守るといふときです。わたしたちの生活は、多くの約束事で成り立っています。文字になっている約束事から、文字にはなっていないけれども、互いに了解しているようなことまで、言葉を守ることから、わたしたちの生活は成り立っています。人間は、言葉を交わすことによって、約束事を確認します。いつ、どこで会おうという約束が交わされて待ち合わせができるのであって、この約束を言葉によって私たちは交わしています。例えば、礼拝も、礼拝堂で10時30分から行われますという約束の言葉を皆が信じて、了解して集まってくるのです。子供たちも、小さいときから言葉を守ることを教えられます。子供も、言葉を守る、約束を守るという中で生きることを学びます。子どもの成長にとって、言葉を理解し、言葉を発音してゆくということはとても大切なことです。

社会全体で、この約束事がルーズになっていると言えないでしょうか。言葉がつくり出す倫理観が失われてはいないかと思えます。「殺してはならない」という言葉が通じず、「嘘をついてはならない」、「盗んではならない」という言葉が通じなくなっています。約束事を守る、言葉を守るということは分かりやすいと思えます。

わたしたちが言葉を守るかどうかということだからです。しかし、言葉を守るというのはわたしたちだけのことでなく、わたしたちはしばしば不真実で、言葉を守らないことがあります。

す。けれども、神様は真実な方ですから、神御自身が御自分の言葉を守られます。そもそも「言葉を守る」ということと共に「言葉が守る」ということがあります。言葉が、わたしたちを守るのです。神様が御自身の言葉によってわたしたちを守ってくださるのです。

プロテスタント教会は、聖書を重んじます。ルターは、教会改革の推進原理として、聖書のみ、聖書だけに聞くことを掲げて、礼拝において、誰もが理解できる言葉で、聖書が読まれることの大切さを説きました。そして、この母国語で朗読される聖書から語られる説教によって、神の御心を伝えることに力を注ぎました。そして、聖書だけでなく、讃美の歌も、祈りも、理解できる言葉で讃美され、祈られることを目指しました。ですから、プロテスタント教会の礼拝では、歌も、祈りも、説教も、聖書朗読においても、言葉が理解されることを大切なこととします。言葉によって、神の恵みと慈しみが伝えられ、神への感謝と賛美がささげられます。福音主義教会では言葉に基づいた礼拝が中心です。言葉が、神の恵みを伝えるのです。この礼拝で聞かれ、語られる言葉が、わたしたちの力となり、わたしたちを守ります。

人間は、言葉を、地上の人生の最後、ぎりぎりまで聞き取ることができると言います。地上の生涯を終わるときであってさえも、キリストがわたしを守ってくださることを伝える言葉を聞くのです。この救いの言葉がわたしを守ります。

集会出席統計(月平均人数)

	2019年	
	1月	2月
主日礼拝	90.5	82.8
聖書と祈り会	13.0	15.8
教会学校*	86.5	94.3

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	1月6日	2月3日
聖餐夕礼拝	9	7

＜世界の教会で＞

「エディンバラ・ジャイルズ教会」

井澤 浩一

昨年2月に、柿ノ木坂教会を会場として、東京改革長老教会協議会の長老研修会が開かれました。講師、楠本史郎北陸学院長のお話は大変有意義なものでしたが、その中でエディンバラにあるスコットランド長老教会のジャイルズ教会を訪問されたときの話をされました。

スイス・ジュネーブでカルヴァンを補佐し、共に宗教改革を進めたジョン・ノックスが、スコットランドに戻って、宗教改革を行います。そして、ジャイルズ教会の牧師となりました。

その話の中で、ジャイルズ教会では長老が会衆の方を向いて座っているというくだりがありました。楠本先生は冗談交じりに長老が会衆を見張っているのか、会衆が長老を見張っているのか・・・とおしゃっていました。

柿ノ木坂教会に例えてみれば、いわゆる講壇の上の牧師や司式者の椅子がある場所に、ずらりと並んで会衆の方を向いている・・・。

柿ノ木坂教会のルーツは、明治学院を起こした一人、アメリカ長老教会から派遣されたヘボン(ヘプバーン)の流れをくむ、長老派の教会。スコットランド長老教会も仲間と言えます。

昨年6月にスコットランドを旅した時、立ち寄ったアイオナ島のことを書きましたが、そのあとエディンバラで日曜日を迎え、ジャイルズ教会の礼拝に出席しました。

前に報告した、カルヴァンのサン・ピエール教会と同じく観光客が押し寄せる教会で、礼拝

の間だけ観光客を締め出します。ジャイルズ教会は10時前になると入口に長老が立ち、観光客を入れないようにしています。私と家内と娘の3人は入り口で日本の長老派の教会から来た、礼拝に出席したいと告げると、よく来た、どうぞどうぞと中に入れてくれました。ただ、この教会員は右側、たまたま訪れたものは左側の後方の席に案内されました。出席は大きい教会なのにたった60名程度、ジュネーブのサン・ピエール教会と同じくらい。ジャイルズ教会には、スイスやドイツと異なり、週報がありました。

すばらしいオルガンが右手の壁にあり、その前の方に、聖歌隊席があります。説教壇はサン・ピエールより低いけれど、やや左手に3段のステップを上ったところにあります。

そして確かに長老と思しき方々が、12~3人いわゆる内陣の中にこちらを向いて座っていました！ 聖餐式は前の方に出て円陣を作って、葡萄酒は回し飲みでした。礼拝はぴったり1時間で終わり、長老方や牧師に色々訊ねたかったのですが、その間もなく後ろの扉が開けられて、観光客がどっと入ってきました。

観光客に混じって、写真を撮り中を見て回りました。教会員と思しき人を捕まえて、長老はなぜ会衆の方を向いているのか尋ねてみましたが、わからないとのこと。聞く相手が悪かったか、それが当たり前だから意味は分からないのか・・・そして賑やかな街へと出ていきました。



上：ちらりとこちら向きに座る長老方が見える。右下：聖歌隊席
左上：ジャイルズ教会正面。左側にノックス像。左下：教会背面



「神様にできないことはないと信じる」

高頭 みちる

私が初めて讃美歌に触れたのは、幼稚園の時だったと思います。私の祖父母は、父方も母方もクリスチャンでした。その時、母はまだ洗礼は受けていなかったのですが、キリスト教教育をしたいと考え、私をキリスト教主義の幼稚園に入れました。そこで初めて聖書を読み聴かせていただき、讃美歌を歌いました。讃美歌は家で母が口ずさんでいたこともあり、大好きでした。

中学校は女子聖学院を受験しました。母が卒業した学校で、祖母は第1代の母の会会長だったとのことです。私が女子聖学院在学中に母は受洗しました。

女子聖学院で、ある声楽家の先輩が歌ってくださったのが1954年版122番「みどりもふかき若葉のさと〜」でした。その美しいメロディと言葉にうっとりとして、新緑のころになると、若き日の主イエスに思いを馳せこの讃美歌を歌いたくなります。

母がピアノを弾きながらよく歌っていたのは1954年版510番「幻の影を追いて・・・」でした。クリスチャンでなかった父もこの讃美歌は知っていてよく口ずさんでいました。この讃美歌の「母はなみだ乾くまなく祈ると知らずや」そして4番の「汝がために祈る母のいつまで世にあらん、とわに悔ゆる日のこぬまにとく神にかえれ」の部分は、母が亡くなった時、納棺式で歌いましたが、生前の母の姿が目の前に浮かんで涙がこぼれました。

母は私に洗礼を受けてほしいとは一度も言ったことがありません。しかしながら、そうして欲しいと思っていることはよくわかっていました。それなのに母の家での言動を見ると「クリスチャンで何？」などと思ってしまい、「教会には行かない」と思っていました。後に母は「こんな私だから、毎週、悔い

改めるために教会に行っているのよ」とは言っていました・・・。

母はそんな私に何も言うことなく、いつも祈ってくれていたのだと思います。

後に、私が近所の八百屋さんでN姉にお会いして教会に誘われ、それまでいろいろな方に誘われてもお断りしていたにも関わらず、その時なぜか「はい。」と言ってしまい、母に「教会に行ってみようと思うの」と電話した時は、とても喜んでくれました。私はいろいろ反抗しても、ほかの宗教を信じる気にはなれず、いつかは母のいる教会に、と思っていたので、母とは違う教会に行くことを詫言ると、母は、「いいのよ。(三位一体の神を信じている)教会ならどこでも。教会に行くことが大事なのよ。」と言ってくれました。

後に分かったことなのですが、母の行っていた教会は日本キリスト教会浦和教会で、スイス・フランス系の改革長老主義の神学に立ち(J.カルヴァン)、堅実な信仰形成を目指している教会でした。現在の柿ノ木坂教会と同じ流れを汲む教会だと思うのですが、その時、母も私もまったくそのことは知りませんでした。

そして、はじめて教会に伺ったとき、勝田先生が、カール・バルトの言葉「あなたは教会のシミや傷に惑わされてはいけない」を引用してお説教をしてくださいました。その言葉を伺ったとたん、私は何か目から鱗が落ちるように今までこだわっていたことが本質とは違うという事に気づきました。衝撃的な体験でした。

その後も、私の悩みに光を与えて下さるようなお話が続き、毎週、教会から帰ると、心の重荷が下り、心が洗われたような清々しい気持ちになっていました。

教会に通い出してから間もなく、主人が亡くなりました。交通事故でした。突然のことで、3人の子供を抱え、途方にくれました。教会もお休みしました。

その年の11月、母校の女子聖学院から聖徒の日の記念礼拝に招かれました。1954年版66番「聖なる聖なる」を歌ったとき涙があふれて止まりませんでした。主人が亡くなってからいろいろな悩みもありましたがじっとこらえていたものが一度に溢れ出たようでした。私が頼るべきは神様なのだと感じました。また教会に通い始め、翌年のイースターに洗礼を受けました。

洗礼を受けてすぐ、教会に聖地旅行の案内が出ていました。母が前から一度行ってみたいと言っていたので、最後の親孝行と思い、母を誘って聖地旅行に行ってきました。その時、ガリラヤ湖の湖畔で歌った讚美歌21の57番「ガリラヤの風かおる丘で」はとても印象深いものでした。夏ではありましたが、木陰で礼拝をし、皆で歌いました。涼しい風が讚美歌の歌詞のまま吹いてきて「恵みの、救いの、力の、いのちの御言葉」を聴かせていただき、喜びと感謝に包まれました。後になっても、母が「ガリラヤ湖のあたりはとっても素敵だったわねえ」と言って二人でビデオや写真を見ながら懐かしく思い出を語りあったものです。

私の心に残る聖句は、ヨシュア記1章9節「わたしは強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいては

ならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる」です。

私が南支区婦人部の委員長を打診され、とてもそんな器ではないと迷っていた時、南支区婦人部の集会で講師の先生にお示しいただいた聖句です。神様が共にいて下さることは分かっていたつもりだったのですが、不安が先に立ってしまい、お受けするのを躊躇していました。しかし、この御言葉を伺ったときに、「主の召しに応じてお役目を担わせて頂こう。」という気持ちが湧いてきました。

その通り、神様はいつも共にいて下さり、お引き受けした時はどうなることかと、思いましたが、何とか大過なく2年間ご奉仕することができました。「神様の御言葉は必ず成る」そして「成し遂げて下さるのは神である。」というみ言葉は信じるに値すると思いました。

また、その他に好きな聖句は「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この3つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」(コリント一13:13)です。聖霊によって、神の愛は絶えず私たちの心に注がれていて、その神の愛が互いに仕え合う生き方へと突き動かす原動力となるのだそうです。

これからも、神様にできないことはないと思信じ、共にいて下さる神様にすべてを委ね、多くの仲間と共に、互いに愛し合い、仕え合い、祈り合いながら、信仰の道を歩んで行きたいと願っております。

☆☆☆ 教会の行事予定 ☆☆☆

◇今まであったこと

2月17日(日) 礼拝後、目黒消防署八雲出張所の職員の方々から防災・避難についての講習を受けた。

◇これからの予定

4月14日(日) 棕櫚の主日、礼拝後2019年度教会総会。

4月18日(木) 19時30分～洗足木曜日礼拝。

4月21日(日) 10時30分～復活日礼拝、午後愛餐会。

「受付当番の仕事」

渡邊 信大
のぶひろ

知人が生まれて初めて、緊張して、日曜日にある教会に行った時のことです。教会がどんなところで、何をしているのか、どんな人がいるのか、まったく分からない状態で玄関に入りました。それを、受付の人が「ようこそいらっしゃいました」とにこやかに迎えてくれたのです。それで、緊張がほぐれたといえます。聖書と讃美歌を貸してもらい、礼拝堂の椅子へ案内されました。教会員の女性が隣に座り、礼拝の間、ずっと親切に聖書・讃美歌の開き方などを教えてくれました。そのときの説教がどんなものだったか、覚えてはいません。けれども教会が自分を温かく迎えてくれたことが、とてもうれしかったといえます。その後続けて礼拝に出席し、洗礼を受けられたそうです。一人の受付当番の配慮が教会全体の伝道の働きとなりました。

受付は教会の顔とも言えます。笑顔をもって対応したいと私も思いました。

それでは受付当番の仕事をご案内いたします。

1. 受付当番の人選

受付当番は、次の要領で割り当てています。

- ① 長老(現任) 1名：毎週順番に担当。
- ② 信徒 1名：第1・第3主日は伝道委員。第2・第4主日は牧会委員で、それぞれ順番に担当します。第5主日がある時はお助けマンと称する方(現在は3名)に担当をお願いしています。

2. 礼拝前の用意

受付カウンター上に以下の物を用意します。

- ① 礼拝出席者名簿をバインダーに挟む
 - a) 会員用：3枚
 - b) 求道者用：1枚
- ② 新来者カードと連絡カード(礼拝出席ご紹介)をバインダーに挟む
- ③ 献金当番・配餐当番の当番カード
 - a) 献金当番：6枚
 - b) 配餐当番：7枚
- ④ 献金箱：(通常は1箱、献金が多い時は2箱)
- ⑤ 週報(会員以外用)及び配布する印刷物等
- ⑥ 新来者用：教会案内に「はじめて教会へいらした方へ」を挟んだパンフレット

3. 受付：午前9時45分 受付開始

*受付開始と同時に玄関の扉を開けたまま固定する。

- ① 献金当番・配餐当番の方に当番カードを渡す。『当番の方は座席指定カードの席にお座りいただくことと、当番カードは座席に置いてお帰り頂くこと』を伝える。
- ② 配餐当番、献金当番が連絡無く欠席された場合、配餐当番は配餐当番(補)又は受付当番の長老が、献金当番は受付当番が、代わりを務める。
- ③ 初めていらした方への対応
 - a) 新来者カードに記入依頼。
読みにくい場合は、フリガナをお願いする。
 - b) 週報をお渡しする。
 - c) 「はじめて教会へいらした方へ」

のビラを差し込んだ「教会案内」をお渡しする。

d) 受付当番の一人が2階の礼拝堂入口まで案内し、会堂当番に引継ぐ。
*会堂当番は、貸出用聖書・讃美歌を棚から出してお渡しし、礼拝順序のお手伝いを教会員にお願いする。

e) 礼拝終了後、牧師に紹介する。

f) 顔を覚え次回以降挨拶を心掛ける。

④ 久しぶりに来られた方やお客様等、紹介の必要がある方がいらっしゃれば連絡カードに記入する。

4. 礼拝中

① 説教前の讃美歌が始まったら、「礼拝が始まっていることを告げる」札を受付カウンター上に出す。

② 玄関の扉を閉める。

③ 献金箱、新来者カード、連絡カードを持って礼拝堂に上がる。

④ 献金箱を会堂当番に渡し、受付当番指定席(第6列・会堂当番の右横)に着席する。

⑤ 新来者・久しぶりにいらした方など紹介がある場合、受付当番の長老は第2列最前部に着席し、礼拝終了後に紹介する。

なお紹介の際、個人情報に気を付けて紹介する。

5. 礼拝後

① カウンター上の物を箱の中に戻す。

② 礼拝出席者名簿(会員用、求道用)・新来者カード及び週報2部を伝道師室のキャビネット内のそれぞれの指定ファイルに穴をあけて綴じる。

★新来者カードはコピーを取り担当伝道委員の週報ケースに入れる。

③ 週報の残部は、2階の週報ケース右端下段にある「今月の週報」のケースに入れる。

(ひとまとめにし、余り紙などに日付を書いて束ねて置く)

④ その他の印刷物の余りは、種類ごとにまとめ、カウンター下に置く。

以上、受付当番の仕事をご案内いたしました。

『あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、私の名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。』

ヨハネによる福音書 15章 16・17節

神様によって、キリストによって、呼びかけられ、召し集められた群れこそ、教会なのです。自分から進んで教会に行ったという人も、実はその前に主からの呼びかけ、召しがあつたのです。

喜びと感謝をもって、受付当番の奉仕に当たりたいと思います。

今月のメッセージ

——ホームページページ巻頭言——

ホームページには多くの情報が掲載されています。

ぜひご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。

(新共同訳聖書・創世記第1章31節)

三学期終わりに近い幼稚園の園児礼拝に、卒園を控えた子供たち、下のクラスの子供たちが集いました。この礼拝の中の話で、世界は誰のものか、と子供たちに問うてみました。子供たちは、「世界はみんなもの」と大きな声で答えました。あまりにしっかりとした答えでしたので感心すると共に、少し焦りました。わたしが子供たちに期待していたのは「世界は神さまのもの」という答えだったからです。「世界はみんなのもの」。これまで聖書に聞いてきた卒園間近の子供たちもいましたので、期待するレスポンスがあるものと思っていましたが、予想していない答えでした。あわてて、急遽、準備してきた話を頭の中で組み立て直さなくてはなりませんでした。

「世界はみんなのもの」という答えは、彼ら、彼女たちが考え得る答えでは、最も良いものであったと言えるかもしれません。世界を我がものにしてという独り善がりの大人が世界の指導者たちの中にも見られるような現代、世界は自分のものと答えず、幼い仕方ながら公共ということを言い表したことは確かに感心すべきことです。けれども、教会に建てられた幼稚園で過ごした子供たちには、世界は神さまのものであると知っていてほしかった。それでもなお期待するならば、世界は神さまのものとして声を挙げなかった子たちもいたのかもしれませんが。

これから彼らは、世界は神さまのものだと

知らない多くの人たちの中に巣立ってゆきます。そこでは、この幼いときに育てられた素朴な信仰は大きな挑戦を受けるでしょう。しかし、本当に大切なことはその子に残されるのです。主がこれを取り去ることなく残してくださるので

す。「世界はみんなのもの」、この答えには驚きましたが、よかったなとも思います。もう一度、彼らに、世界は神さまのものだよ、と伝えることができたからです。幼稚園から巣立って行ったとしても、彼ら、彼女たちが進んで日曜日の礼拝に来てくれるならば、御言葉が、教会の信仰が、彼らの信仰を守るでしょう。小学生からの礼拝で子供たちが手にするテキストの最初にこうあります。

問い「あなたは誰ですか。」

答え「わたしは神さまの子どもです。」

(「わたしたちは神さまのもの - はじめてのカテキズム」)

世界は神さまのものである。わたしは神さまの子どもである。このことは信仰をもってはじめて理解できることです。聖書は、その冒頭で、神さまがおられるか、おられないかといった不毛な議論は一切しません。神さまがおられる、おられる神さまがわたしたちに何をしてくださったのかから語りはじめます。世界は神さまのものである、ここからわたしたちのすべてを出発させるのです。この信仰は、わたしたちの世界の見方を一変させてしまい、世界の変転の中でわたしたちを確かに支えるのです。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・「わたしの聖句・讃美歌」を書いていただいた高頭長老の文に、改めて主が共にいらっしやることを感じました。そして、新しく教会の門をくぐられる方々の大切な入り口である「受付当番」のお仕事について書いていただいた渡邊長老。受付当番に当たられる方々の、気を遣うご奉仕に頭が下がります。
- ・受難節に入っています。私たちのために十字架への道を歩まれたことを、心に刻み、来るべき復活の喜びの日を迎える備えをしたいものです。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規